

# RDAにおける利用者タスク：RDAモデルの確立を目指して

谷口 祥一（慶應義塾大学文学部）  
taniguchi@z2.keio.jp

〔抄録〕RDAはFRBRおよびFRADに依拠しつつも、独自の概念モデルを有していると捉えるべきことを、これまでに主張し検証してきた。本発表では、利用者タスクに焦点を当て、RDAモデルにおける利用者タスクの定義を再整理し、その上でこれらタスクとRDAモデルの属性・関連とのマッピングおよびタスク達成における重要度評価を、FRBR/FRADにならい試みた。第1・第2グループ実体については複数のマッピング法を提示し、FRBR/FRADに比してより総合的である点を確認した。併せて、その他の実体についても同様のマッピングを提示した。

## 1. はじめに

RDA (Resource Description and Access)<sup>1)</sup>の主たる特徴の一つとして、概念モデルであるFRBR<sup>2)</sup>(「書誌レコードの機能要件」と)とFRAD(「典拠データの機能要件」)<sup>3)</sup>に基づくことが、RDA自体において謳われている。FRBRおよびFRADに依拠していることは確かな事実であるが、その細部においてはそれらと若干異なる部分を有している。筆者はこれまでに、RDAを直接反映した概念モデルを提示し、FRBRおよびFRADとの対応関係を検証した<sup>4),5)</sup>。加えて、集合的実体と構成的実体の扱いについて検討した<sup>6)</sup>。これらから、RDAをその直接対応する「モデル」(RDAモデル)と「記述」に分けて捉えるべきことを提案している。それによって、RDAの容易かつ深い理解が得られることを意図している。なお、後者の「記述」とは、正確には記述とアクセスポイントの構成および記録に直接かかわる規則群(ガイドラインおよびインストラクション)を指す。

本発表は、先に提示したRDAモデルの確立を意図して、これまでは部分的な言及にとどまった利用者タスクにかかわるモデリングを改めて試みる。

## 2. 利用者タスクの定義

FRBRは利用者タスク「発見(find)」、「識別(identify)」、「選択(select)」、「入手(obtain)」を導入し、FRADは同じく「発見」、「識別」、そして「関連の明確化(contextualize)」、「根拠の提供(justify)」を規定している。FRADは典拠データの利用者としてエンドユーザ(一般利用者)とカタログラー(メタデータ作成・管理者)を想定している。「根拠の提供」は明らかにカタログラーにかかわるタスクであるが、「関連の明確化」がエンドユーザによるタスクを含むかについては解釈が分かれる。

RDAはFRBR/FRADの両者を踏まえて、利用者タスクa)著作から個別資料までの「発見」、

「識別」、「選択」、「入手」、b)個人・家族・団体の「発見」と「識別」、c)実体間の関連の「理解(understand)」、d)実体とその名称との関連の「理解」、およびe)タイトル/名称の採用理由の「理解」を定義している(RDA 0.0, 0.4.2.1)。c)からe)は、FRADにおける「関連の明確化」、「根拠の提供」に代わって導入されたタスクであり、典拠データ利用者のうち、エンドユーザ側からの一貫したタスク設定としている。これがRDAの利用者タスクの特徴であり、これを基軸にしてモデルが構築されている。

## 3. 第1・第2グループ実体の属性・関連と利用者タスクとのマッピング

### 3.1 マッピングの提示

次に、利用者タスクとRDAモデルにおける属性・関連とのマッピング、そしてタスク達成における個々の属性・関連の重要度評価を試みる。

FRBRでは、たとえば実体「著作」の属性「著作のタイトル」は、著作の発見、識別、選択にとって「高い重要度」をもつとしている。同様に、属性「著作の形式」は、著作の選択において「高い重要度」をもち、発見・識別において「中位の重要度」をもつとしている。このように、属性・関連ごとに、著作の発見から個別資料の入手までに分割したサブタスクに対する重要度評価(高・中・低の重要度、および重要性なしの区別)を行っている。他方、FRADでは重要度のランクは示しておらず、たとえば実体「個人」の属性「個人と結びつく日付」は個人の識別、関連の明確化、根拠の提供とのタスクに対応づけるにとどめている。

他方、RDAはFRBR/FRADに見られるマッピングおよび重要度評価の方式とは異なり、章の括りを単位とした対応づけを行っている。たとえばセクション1(体現形・個別資料の属性の記録)の1章「全般的ガイドライン」では、

セクション1で扱うエレメントは全体として  
体現形・個別資料の発見・識別・選択・入手に  
対応するとしている (RDA 1.2)。2章はタイ  
トルや責任表示等の扱いを詳細に規定し、その  
目的は体現形・個別資料の識別に対応するとし  
ている (2.0)。3章はキャリア等の詳細事項の  
扱いを規定し、その目的は体現形・個別資料の  
識別と選択にあるとしている (3.0)。同様に4  
章は入手にかかわる事項を規定し、その目的を  
体現形・個別資料の入手にあるとする (4.0)。

このような規定に依拠しつつ、RDA モデル  
における実体の属性・関連と利用者タスクとの  
マッピング法を、ここでは3つ提示する。

**マッピング1** : RDA 1章の規定に基づき体現  
形・個別資料の属性は、全体にわたって「中位  
の重要度」とするが、特定の属性に限定して規  
定した2から4章に属する部分は「高い重要  
度」とする。すなわち、属性'title'、'  
statement of responsibility'などは、RDA2章の規定に基  
づき、体現形・個別資料の識別に関してのみ「高  
い重要度」とし、それ以外は「中位の重要度」  
とする。同様に、属性'media type'、'  
carrier type'等は、RDA3章の規定に基づき、体現形・  
個別資料の識別と選択に関して「高い重要度」  
とする。さらに、3章で規定する属性からは発  
見タスクを外し、4章で規定する属性からは発  
見と識別タスクを一律に外す。これらはその属  
性群の特性に依拠した判断である。6章以降で  
扱われる属性群・関連群についても、基本的に  
同様な方式でマッピングを行う。

**マッピング2** : 上記のマッピング1を採用した  
上で、RDAのエレメント(属性、関連)ごと  
に対応する実体を、JSCによる文書 *RDA to  
FRBR mapping*、*RDA to FRAD mapping*<sup>7)</sup>を  
参照して特定し、特定された実体にかかわるタ  
スクに限定する形式でマッピングを行う。たと  
えば、属性'title'は上記文書によれば体現形の  
属性とされており、そのため対応づけるタスク  
は体現形にかかわるものに限定する。なお、対  
応するFRBR/FRAD実体が不確定なものにつ  
いては、マッピングにおいてもその旨を示して  
採用した。体現形・個別資料の属性にかかわる  
マッピング結果の一部を表1に示した。

**マッピング2-B** : 上記マッピングにおいて、「コ  
アエレメント」でないときには、重要度を1ラ  
ンク下げる。

**マッピング3** : 上記マッピング2-Bにおいて、  
さらにRDAエレメントサブタイプおよびサブ  
エレメントがあるときには、それらの単位でマ  
ッピングを行う。対応するFRBR/FRAD属

性・関連がないものについては、筆者の判断で  
マッピングを行う。

### 3.2 FRBR/FRAD との対比

得られたマッピング結果を、マッピング2の  
レベルにおいて、FRBR/FRAD と対比を試み  
る。マッピング2の結果について、実体ごとの  
属性群・関連群が果たす利用者タスクをまとめ  
て示したのが、図1である(ただし、重要度の  
区分については捨象)。たとえば、著作の属性  
が著作の発見・識別・選択、そして理解という  
タスクを達成し、著作間の関連が著作の発見と  
理解タスクを達成し、また著作と個人等との関  
連が著作の発見タスクを果たすことが示され  
ている。FRBR/FRAD についても、同様に、  
実体ごとに属性群・関連群とその対応する利用  
者タスクを集約することで、相互の対比を容易  
にすることができる。

これらを用いた対比から、提示したマッピ  
ングは、全体としてFRBR/FRAD に近似したマ  
ッピング結果を示しているが、同時に下記の理  
由により、整合的かつ一貫性あるマッピングで  
あると判断できる。

1)FRBR/FRAD においては、第1・第2グル  
ープ実体の属性群に対して、タスクとの詳細な  
対応づけを行っているが、その妥当性は容易に  
は解釈できない。それに比して、RDA はいわ  
ば機械的な割り当て法であり、より広範なタ  
スクとの対応づけとなっている。この結果、マ  
ッピング3においては両者の相違が大きい。

2)一方、関連群については、RDA は発見と理  
解タスクのみに限定しているのに対して、  
FRBR/FRAD は発見以外に、識別や選択(場  
合によっては関連明確化が加わる)を割り当て  
ている。RDA では関連の記録は、識別子、典  
拠形アクセスポイント、そして「記述  
(description)」によって行われるが、第1と  
第2グループ実体との関連については、識別子  
または典拠形アクセスポイントのみ用いると  
されており、こうした場合に識別・選択タスク  
は実質的に困難であると考えられる。

3)FRBR に見られる、体現形の属性が著作や表  
現形にかかわるタスクの達成に必要という、当  
該実体を越えたマッピングは、RDA において  
は採用されておらず、体現形の属性は体現形に  
かかわるタスク達成のみに必要との構図とし  
ている。たとえば、FRBR が示すマッピングで  
は、体現形の属性「体現形のタイトル」は、著  
作・表現形・体現形の発見と識別にとって「高  
い重要度」、著作・表現形・体現形の選択にと

って「中位の重要度」、さらに体现形の入手にとって「高い重要度」をもつとされていた。このようなマッピングはモデルの解釈に困難をもたらすことを、筆者は以前から指摘してきた<sup>8)</sup>。この問題を RDA は回避している点は重要である。

#### 4. その他の実体の属性・関連と利用者タスクとのマッピング

FRAD は、FRBR が定義した実体群に加えて、新たな実体「名称(name)」、「識別子(identifier)」、「統制形アクセスポイント(controlled access point)」、「規則群(rules)」、そして「機関(agency)」を導入し定義している。RDA はこうした実体を明示的には採用していないが、そのまま当てはめることができると考えられる(図2)。なお、「統制形アクセスポイント」は、RDA では「アクセスポイント」(典拠形と異形)となり、「規則群」・「機関」は対象外とする。ちなみに、RDA に即したモデリングを図ると、実体を細分化することがより適切であり、第1・第2グループ実体群のうち、著作・表現形、個人等に対象を限定して、新たなモデルを筆者は提案している<sup>4),5)</sup>。

図2に示した RDA モデルでは、個人等は実体「名称」と関連'name of the person'等を、実体「識別子」と関連'identifier for the person'等をもつ。また、著作等は、実体「名称」と関連'title of the work'等を、実体「識別子」と関連'identifier for the work'等をもつ構図である。なお、これら関連群は、図1に示したモデリングでは実体「個人」・「著作」等の属性に位置づけられるが、FRAD による観点からは関連に相当するとした。RDA では、それぞれの実体について、FRAD に比べると極めて限定された属性しか指定されていないが、モデルとして自立しうるものとする。

次に、この RDA モデルの属性・関連に対して、利用者タスクとのマッピングを、FRAD を参考にしつつ試みた。実体「名称」・「識別子」・「アクセスポイント」そのものを構成する文字列('name string', 'base access point'など)は、それぞれの実体の発見と識別のタスクを、「名称」の属性'scope of usage', 'date of usage'は理解(名称が採用された理由の理解)タスクを担う。個人や著作等と名称との関連など、すべての関連は発見タスクを担うものとする。

これらマッピングの結果を集約したものを図2に示す。FRAD についても同様に集約を図ることにより、対比することが容易となる。

1)RDA では実体群の属性が限定されており、利用者タスクも限定されている。FRAD は上記の実体それぞれに多くの属性を付与しており、対応する利用者タスクも若干多い。たとえば、FRAD 実体「統制形アクセスポイント」には発見・識別・関連明確化・根拠提供タスクが割り当てられているが、RDA 実体「アクセスポイント」のタスクは発見・識別・理解とされる。

2)RDA では、すべての関連が発見タスクにのみ対応づけられているが、FRAD では実体「個人」等から「名称」への関連は発見および関連明確化など、発見を超えたタスクを割り当てている。

#### 引用文献

- 1) The Joint Steering Committee for Development of RDA. *RDA: Resource Description and Access*. Chicago, American Library Association, 2011.
- 2) IFLA Study Group on the Functional Requirements for Bibliographic Records. *Functional Requirements for Bibliographic Records. Final Report*. K.G. Saur, 1998, 136p. <http://www.ifla.org/en/publications/functional-requirements-for-bibliographic-records>, (参照 2013-03-30) [和中幹雄ほか訳『書誌レコードの機能要件』日本図書館協会, 2004.]
- 3) IFLA Working Group on Functional Requirements and Numbering of Authority Records. *Functional Requirements for Authority Data: a Conceptual Model. Final Report*. K.G. Saur, 2009, 101p. [国立国会図書館収集書誌部訳『典拠データの機能要件. 概念モデル』2012. [http://www.ndl.go.jp/jp/library/data/frad\\_jp.pdf](http://www.ndl.go.jp/jp/library/data/frad_jp.pdf), (参照 2013-03-30)]
- 4) Shoichi Taniguchi. Viewing RDA from FRBR and FRAD: Does RDA represent a different conceptual model? *Cataloging & Classification Quarterly*. Vol.50, Issue 8, 2012, p.929-943.
- 5) 谷口祥一. 「RDA をモデルと記述に分けて捉える: RDA 理解のための枠組み」『図書館界』Vol.64, No.6, 2013, p.378-390.
- 6) Shoichi Taniguchi. Aggregate and component entities in RDA: Model and description. *Cataloging & Classification Quarterly*. Vol.51, Issue 5, 2013, p.580-599.
- 7) The Joint Steering Committee for Development of RDA. *RDA to FRBR mapping (5JSC/RDA/RDA to FRBR mapping/Rev/3), 1 July 2009*. [http://www.rda-jsc.org/docs/5rda-rdafrbrmapping\\_rev3.pdf](http://www.rda-jsc.org/docs/5rda-rdafrbrmapping_rev3.pdf), (参照 2013-03-30)  
*RDA to FRAD mapping (5JSC/RDA/RDA to FRAD mapping/Rev/2), 1 July 2009*. [http://www.rda-jsc.org/docs/5rda-rdafradmapping\\_rev2.pdf](http://www.rda-jsc.org/docs/5rda-rdafradmapping_rev2.pdf), (参照 2013-03-30)
- 8) Shoichi Taniguchi. A conceptual model giving primacy to expression-level bibliographic entity in cataloging. *Journal of Documentation*. Vol.58,

表1 RDAの属性・関連と利用者タスクとのマッピング：マッピング2（一部のみ）

RDA 属性、関連	利用者タスク													
	発見				識別				選択				入手	
表現形・個別資料の属性	W	E	M	I	W	E	M	I	W	E	M	I	M	I
Title			<input type="checkbox"/>				■				<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>	
Statement of responsibility			<input type="checkbox"/>				■				<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>	
Edition statement			<input type="checkbox"/>				■				<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>	
Numbering of serials			<input type="checkbox"/>				■				<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>	
Mode of issuance			<input type="checkbox"/>				■				<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>	
Frequency		<input type="checkbox"/>				■				<input type="checkbox"/>				
Identifier for the manifestation			<input type="checkbox"/>				■				<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>	
Preferred citation			<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>			■	■?			<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
Custodial history of item				<input type="checkbox"/>				■				<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
Immediate source of acquisition of item				<input type="checkbox"/>				■				<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
Identifier for the item				<input type="checkbox"/>				■				<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
Media type							■				■		<input type="checkbox"/>	
Carrier type							■				■		<input type="checkbox"/>	
Extent						■?	■			■?	■		<input type="checkbox"/>	
Item-specific carrier characteristic								■				■		<input type="checkbox"/>
Terms of availability											<input type="checkbox"/>		■	
Contact information											<input type="checkbox"/>		■	
Restrictions on access											<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	■	■
Restrictions on use											<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	■	■
Uniform Resource Locator											<input type="checkbox"/>		■	

W: 著作、E: 表現形、M: 表現形、I: 個別資料； ■: 高い重要度、□: 中位の重要度

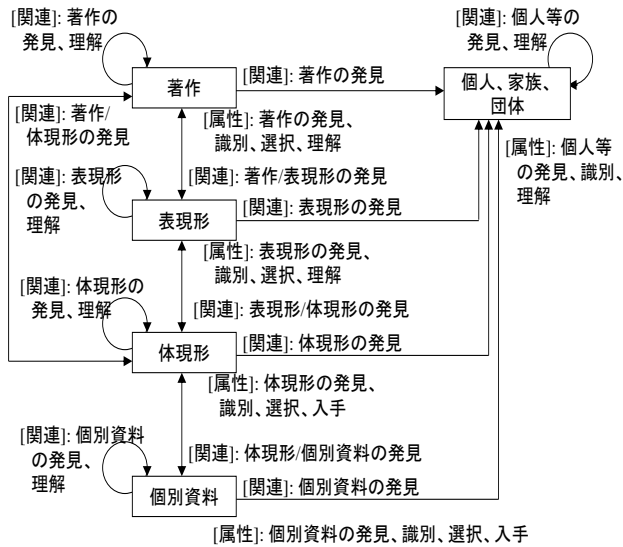


図1 属性・関連と利用者タスクとのマッピング（第1・第2グループ実体）

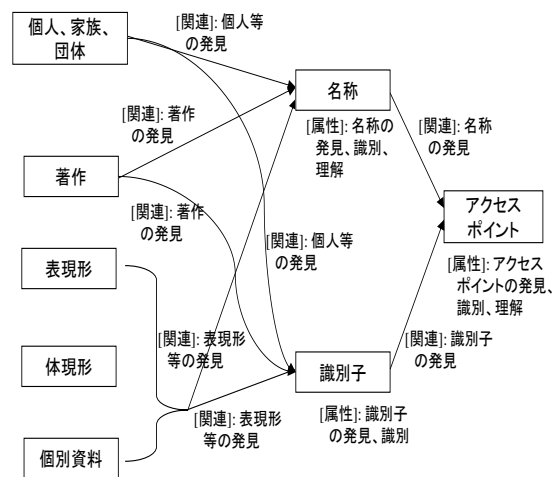


図2 属性・関連と利用者タスクとのマッピング（その他の実体）